

# 1 上北地域の特性を活かした獣医師確保対策

上北地域県民局地域農林水産部十和田家畜保健衛生所

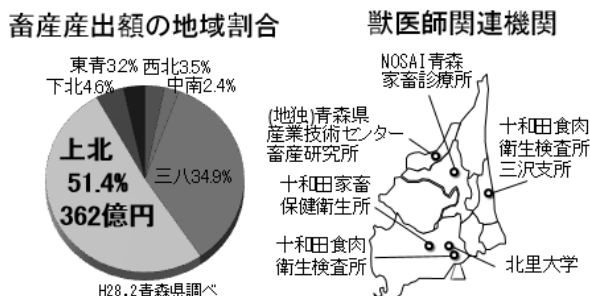
○八重樫恵嗣 佐藤 馨  
 佐怒賀香澄 角田 公子  
 藤掛 斉 田中 慎一  
 佐藤 公伸 中島 聡

## 1 はじめに

高病原性鳥インフルエンザや口蹄疫等家畜伝染病対策の重要性が高まり、公務員獣医師の役割がますます拡大しているが、青森県獣医師職員の確保は難しい状況であり、安定的な人材確保が急務である。

上北地域は、畜産産出額は362億円で県の約半分を占め、畜産業が盛んなことから、食肉衛生検査所、家畜診療所など獣医師関連機関が広く存在し、産業動物獣医療に触れる機会が多い。また北里大学（以下、大学）が地元であり、獣医師が育ちやすい環境が形成されている特性を持つ（図1）。

このことから、上北地域では全県に先駆け、獣医師確保対策に取り組んできたのでその概要について報告する。



→ 畜産業が地域産業として定着、  
 獣医師が育ちやすい環境を形成

図1 獣医師確保に向けた上北地域の特性

## 2 獣医師確保対策の経緯

当所では地域の特性を活かし、大学への対応として従前より学外実習の受入れや出前講座を継続してきた。更に21年度には独自に上北地域獣医師交流事業（以下、上北交流事業）を立ち上げた他、県事業を活用し、インターンシップにも積極的に取り組んできた<sup>1)</sup>。また、22年度からの高校への出前講座に加え、24年度には範囲を中学にまで拡大し、中高併設中学校（以下、附属中）を対象に対策を開始するなど、地域独自の取り組みを継続してきた（図2）。

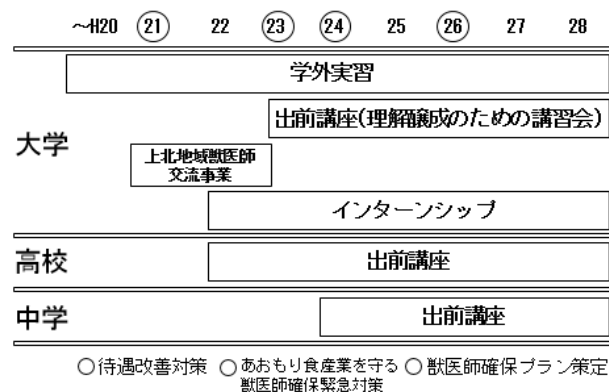


図2 獣医師確保対策の経緯

また、県としても平成21年度は獣医師の待遇改善対策として、初任給調整手当の創設に取り組む他、26年度にも県獣医師職員養成学資金の創設、23年度にはあおり食

産業を守る獣医師確保緊急対策事業や 24 年度の獣医師確保プランを策定し、全県的に取り組んできた。

地域の取組みを進めるなか、附属中学生に対するアンケート調査の結果、公務員獣医師の認知度が低いということが判明したことから、今年度は高校、大学への確保対策を継続しながら、対象範囲を特定校の中学生だけでなく、一般の中学生にまで広げ、中学対策を強化した（図 3）。

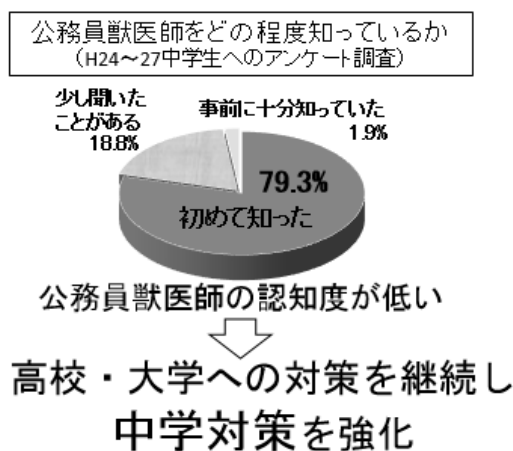


図 3 これまでの課題と今年度の取組み

### 3 年代ごとの取組み

#### (1) 大学生への対応

平成 16 年頃から大学生への対応としては家畜保健衛生所（以下、家保）の業務を体験・紹介を目的に実習を行った。

**目的：**家畜保健衛生所の業務を体験・紹介

**対象：**管内獣医系大学

**内容：**上北地域獣医師交流事業  
実習・インターンシップ受入  
出前講座による情報提供

**実績：**上北地域獣医師交流事業 延べ52名  
(産業動物臨床実習、現地研修)

実習 31名、インターンシップ 34名  
出前講座 6回 850名

図 4 大学生への対応

大学との協力体制を継続しながら実施してきた学外実習では、家保の業務をしっかりと体験してもらい、当地域の課題であるヨーネ病対策や放牧衛生検査と、その必要性について理解を図るための実習を実施した。産業動物臨床実習及び現地研修等の上北交流事業参加者は延べ 52 名、学外実習は 31 名、インターンシップ 34 名、出前講座 6 回 850 名となった（図 4）。平成 21 年と 22 年度の上北交流事業では主に民間獣医師との臨床実習を行い、畜産全般を総合的に理解するため、生産現場の視察を行った（図 5）。

#### 1 学外実習

大学との協力体制を継続。近年は地域の課題へ対応



#### 2 上北地域獣医師交流事業

大学との連携強化。産業動物獣医師の職場を研修



図 5 大学生への対応

また、県の事業であるあおもり食産業を守る獣医師確保緊急対策事業では、減少する公務員獣医師を確保するため、健康福祉部と連携し全県的に実施した。公務員獣医師の業務に関する研修会では防護服の着脱訓練などを行い、畜産関係施設で現地研修会も実施した。また、インターンシップでは、即戦力となる大学生に、様々な経験を通して仕事の正確な内容を伝えた（図 6）。

3 あおり食産業を守る獣医師確保緊急対策事業  
健康福祉部との連携、公務員獣医師の職場研修  
(1) 研修会及び現地研修



(2) インターンシップ



図6 大学生への対応

(2) 高校生への対応

平成 22 年度から獣医師に興味のある高校生を対象に、獣医師の業務、特に家保など産業動物にたずさわる獣医師の紹介を目的とした出前講座を実施した。平成 24 年度からは情報提供だけでなく、家保の業務を体験し理解を深めるためにヘマトクリット値の測定、血液観察などの実習を追加した。平成 27 年度までに延べ 7 校 73 名で実施した (図 7、8)。

目的：獣医師の業務、特に家畜保健衛生所など産業動物に携わる獣医師の紹介

対象：獣医系大学へ進学実績のある学校

内容：出前講座による情報提供  
平成24年度から実習を追加

実績：昨年度まで、延べ7校 73名

図7 高校生への対応

出前講座では情報提供に加え、実習による家保業務の紹介



図8 高校生への対応

(3) 中学生への対応

平成 24 年度からは中学生に対して、獣医師になるための進路や、業務の多様性について出前講座や職場研修を行った。昨年度までは附属中 1 校だけであったが、今年度は対象範囲を広げ、附属中に加え、新たに 3 校で出前講座を実施した。実績として平成 27 年度まで延べ 4 校 242 名、今年度は延べ 5 校で実施した (図 9)。

目的：獣医師になるための進路  
獣医師業務の多様性を紹介

内容：出前講座による情報提供  
(動物愛護センター、大学と連携)  
家畜保健衛生所での職場研修

実績：昨年度まで4年間で、延べ4校 242名  
今年度は延べ5校で実施

図9 中学生への対応

さらに動物愛護センター及び大学と連携をとりながら、獣医師に興味をもってもらうため、動物とのふれあい、聴診、防護服の着脱、血液観察などの実習をおこなって幅広く獣医師という職業を紹介した(図10)。

出前講座において幅広く獣医師という職業を紹介



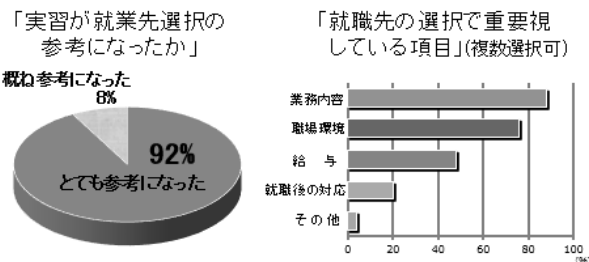
図 10 中学生への対応

4 アンケートの調査結果

(1) 大学生

実習等に参加した大学生へのアンケート調査では「実習が就業先の選択の参考になったか」の問いに 92%の学生が、「とても参考になった」と回答した。また就業先の選択で重要視している項目として「業務内容」と回答する学生が多かった。この結果から、実習等を通じて業務の内容を体験・周知することの必要性を確認した(図 11)。

対象:H23~25家保実習、インターンシップ参加者25名



→ 実習等を通じて業務内容を体験・周知することの必要性を確認

図 11 アンケート調査結果 (大学生)

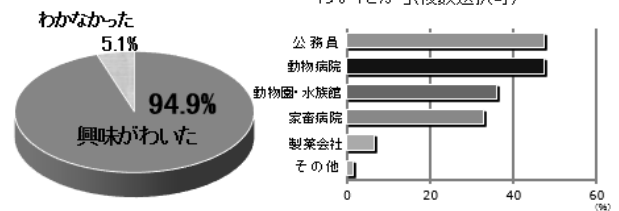
(2) 高校生

高校生への調査では「獣医師の職業へ興味があったか」との問いに対し、「今まで以上に興味があった」と回答した高校生は約 95%と多く、出前講座実施後の「獣医師

のどの分野に興味があったか」の問いには「公務員獣医師」と「小動物獣医師」に大きく二分され、この結果より出前講座の継続が公務員獣医師の確保につながると推察された(図 12)。

対象:H24~28出前講座受講生61名

「獣医師の職業への興味」「獣医師のどの分野に興味があったか」(複数選択可)



→ 出前講座の継続が公務員獣医師確保に繋がると推察

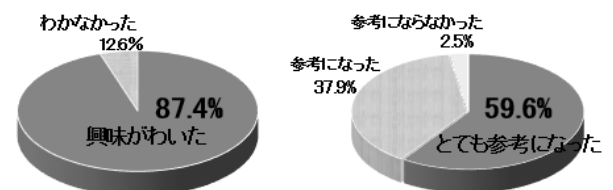
図 12 アンケート調査結果 (高校生)

(3) 中学生

中学生への調査では、「獣医師の職業へ興味があったか」の問いに対し 87.4%の中学生が「獣医師職業へ興味があった」と回答し、また「進路選択の参考になったか」の問いに対して 59.6%の学生が「とても参考になった」と回答した。このことから、出前講座は進路を検討するうえで情報提供の手段として有効と考えられた(図 13)。

対象:H24~28出前講座受講生319名

「獣医師の職業への興味」「進路選択の参考になったか」



→ 出前講座は、進路を検討する上で情報提供の手段として有効

図 13 アンケート調査結果 (中学生)

## 5 取組の成果

今年度は高校・大学生への対策を継続し、中学生への対策を強化した。

中学校・高校及び大学と年代に応じた情報を提供するとともに、県や大学が連携しながら、インターンシップや家保実習など、状況に応じて対策を行ってきた。その結果、獣医師への関心が高まるとともに、公務員獣医師の業務への理解が醸成された（図14）。

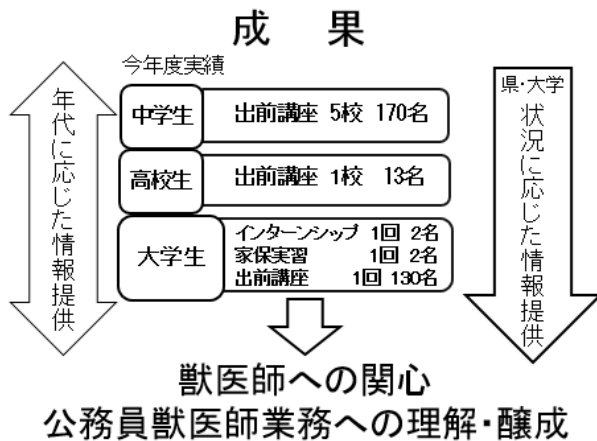


図14 今年度の取組の成果

## 6 まとめ

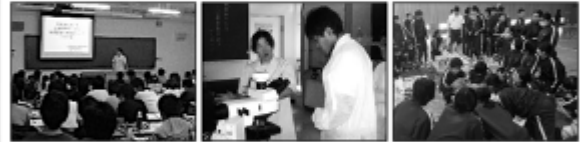
畜産業が盛んで、地元で獣医系の大学があり、産業動物獣医療に触れる機会が多いといった地域の特性を活かしながら、獣医師関連機関が連携を取り、中学から大学までの年代に応じた情報を提供してきた。

今後も出前講座や実習により業務内容の紹介を続け、更には大学生に職業としての公務員獣医師の魅力や、長期6年間にわたる学費をスキルへの投資と考えられるような獣医師のやりがいを伝え、県の待遇改善やスキルアップのための研修や講習会等と合わせて効果的な獣医師確保対策を推進していきたいと考える（図15）。

## まとめ

### 1 地域の特性を活かした対策

- 「関係機関が連携」
- 「中学～大学まで年代に応じた情報提供」
- 「公務員獣医師の魅力・やりがいを伝える」



### 2 待遇改善・スキルアップ

## 獣医師確保対策の推進

図15 まとめ

〈参考文献〉

- 1) 佐藤郷子ら：青森県家畜保健衛生業績発表会（2009）